

「四季・植物」40 栗

学名 Castanea.

ブナ科クリ属の総称

名前の由来については、様々な説がありはっきりしない。

郷土資料から見た「^{くり}栗」のあれこれ

栗は秋の代表的な果実の一つである。旧暦の9月13日の名月を^{まめめいげつ}豆名月・^{くりめいげつ}栗名月と呼ぶのは、秋の収穫を感謝する呼称である。

古くから食用とされ、栽培されていた痕跡を示す遺跡も発掘されている。年中行事としては、正月に「歯固め」と称して干柿や栗を食べる習慣や、小正月には柿の木や栗の木に傷をつけ、その傷に^{あずき}小豆^{がゆ}粥や^{あずきぞうじ}小豆雑煮を食べさせて実の豊作を願うという「^{なりきせ}成木責め」の風習も地方によっては存続している。

栗は保存方法によってカチグリとスナグリに分けられるが、カチグリは乾燥させた栗を臼でつき殻を取ったもので、スナグリは生の栗を砂や^{もみから}籾殻の中で貯蔵したものである。カチグリは長期保存がきき新年以外にも祝いの席に用いられるが、スナグリは長期保存には適さないため、冬季間の一時的な貯蔵法とされている。

栗御飯は、今、秋の味覚として食膳を楽しませてくれている。

参考資料

「柏崎市史資料集 民俗篇」	柏崎市史編さん委員会編	1986	「新潟県大百科事典」	新潟日報事業社編	1977
「日本民俗大辞典」	吉川弘文館発行	1999	「味覚辞典」	東京堂出版発行	1972
「日本大百科全書」	小学館発行	1994	「暦ことば辞典」	三省堂発行	2002